

外国語－２（第１学年） Show & Tell で自分の気持ちなどを話して伝える事例
 【学習活動の概要】

1 単元名 「Program 1～4 英語で自分のことを伝えよう」		
2 単元の目標 自分のことや身近な人，日常生活や身の回りのことについて英語で表現する。		
3 評価規準 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 ・会話の場面では，聞き手に十分に伝わる音量で発話している。 【外国語表現の能力】 ・自分のことや身近な人について口頭で紹介することができる。 ・日常生活や身の回りのことについて口頭で説明することができる。 【外国語理解の能力】 ・他者の自己紹介を聞いたり読んだりして，その内容を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解】 ・be 動詞や一般動詞の使い方を理解している。		
4 教材 本単元は，自己紹介や教室での会話など，日常生活でのコミュニケーションの場面と会話を中心に構成されている。自分と身近な人や物について英語で表現できるようになることをねらいとして，be 動詞を使った一人称の表現に始まり，二人称・三人称の表現，一般動詞へと段階的に導入していく。実践的コミュニケーションの場面を多く設定し，学習したことを活用して表現させる活動を通して「思考・判断・表現」する力を育成する。		
5 主な学習活動 (1)単元の展開（全20時間）		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 (4)	・be 動詞（am, are）を使った簡単な自己紹介と質疑応答	仲間と協力しながら，より良い表現活動ができるように，積極的にコミュニケーションを図らせる。
第二次 (6) 本時	・be 動詞（is）を使った家族紹介（Show & Tell）	今まで学習したことを生かし，自分のことについて英語で表現できるようにさせる。
第三次 (5)	・一般動詞（play, study, like 等）を使った日常生活の説明・質疑応答	他者の自己紹介を聞いたり読んだりして，その内容を理解できるようにさせる。
第四次 (5)	・一般動詞（have 等）と複数形を使った身の回りのことの説明・質疑応答	今まで学習した文法と語彙を身に付け，適切に使わせる。
(2)本時の学習（2/6時間）		
目標：学習したことを生かして，聞き手に正しく伝わるように表現する。 展開： ①第三者について説明する表現を理解する。 ②聞き手に伝わりやすい説明の仕方を理解する。 ③学習を振り返り，自己評価する。		

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領 2 内容 (1) 言語活動 「イ 話すこと」 (イ) 「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」を取り上げて指導するものである。

学習指導要領解説では、この指導事項について、「適切な声量で明瞭に話すなど聞き手を意識し、的確な英語を使って、大切なところは強調して話したり、聞き手が分かりにくいところは繰り返したり他の表現で言い直したりなど」することで「聞き手に正しく伝える」ことを示した活動であるとしている。

本単元は、日常生活でのコミュニケーションの場面を取り入れることにより、そのような相手意識を持った言語活動を指導するものである。

【言語活動の充実の工夫】

第三者を紹介する表現方法について学習することで、身の回りの出来事や自分の興味に関する内容を英語で表現できるようになってくる。この時期では、自分が伝えたい内容を英語で考え、英語で伝える活動を継続的に行うことで、即興での「話す力」を徐々に育成することが大切である。

そこで、言語活動を充実させる工夫の一つとして、本単元では2時間の計画で Show & Tell 活動（ある物について実物を見せながら話をする活動）を取り扱うこととした。活動を行う上でのポイントは次のとおりである。

- ・本時の Show & Tell は、実践的なコミュニケーション能力を育てるために、英文原稿は用意させず、ワークシートを参考に口頭練習させ、即興的に紹介させた。
- ・紹介する人物について伝えたいことを、既習事項を駆使して表現するよう促し、各自が「思考・判断」する場面を設定した。また、本時の目標文である He/She is ～ を基本としつつも、知っている表現があれば使ってもよいものとし（例：He/She likes ～）、目標文以外の細かい間違いの訂正は控えて、なんとかして表現したいと思う意欲を大切にしたい。
- ・Show & Tell による報告活動により、相手に理解されなければ伝えたいことにならないことに気付かせ、聞き手に正しく伝えるための表現の仕方を模索させる。それにより、単に自分が伝えたいことを話すという一方向的な紹介から、聞き手の立場に立った紹介のあり方について意識を高めることにつなげた。

この Show & Tell 以外にも、学習したことを生かして、聞き手に正しく伝わるように表現することができるよう、次のような点で言語活動の充実を図っている。

- ペアやグループでの対話や音声を重視した指導を行う。
本校の生徒は、英語の音やリズムに慣れる指導を小学校で受けており、音感が鋭く英語を話すことへの抵抗感が少ない。その特長を生かし、初歩的な「知識・技能」や学習したことを駆使して積極的にコミュニケーションを図り、意欲的に表現の幅を広げ、より良い表現を目指していこうとする姿勢を育てていく。
- 生徒にとってより現実的で身近な話題や場面の設定する。
言葉以外の要因（ジェスチャー、表情等）を駆使しながら、聞き手を意識したコミュニケーションを促す。
- 普段から実際の日常会話の場面を設定し、原稿を用意させず即興で話させる。
- 仲間同士での関わり合いを通して互いに高め合う（磨き合う）場面を積極的に取り入れる。
生徒同士で互いのスピーチを聞く活動を取り入れ、聞き手にとってよりよいスピーチとはどういうものか、自分たちの力で気付き表現力を高め合う、生徒同士の磨き合いを意識した授業づくりを行う。また、他者の発表の良いところや自分の課題に気付かせ、相手によりわかりやすく伝える表現の仕方を自分なりに考えさせる。
- 会話の自由度を増したり、内容・活動形態に工夫をすることで学びたい事柄を「自然に繰り返させる」ことを意識した指導を行う。
- 教師が意図的かつ積極的に言葉かけをする。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：① （※分類番号はP5表参照）